

教育実習、前期に続いて後期も奮闘中！

心理・文化学科

こんにちは！すっかり秋らしくなりましたね。

教職を目指す大学4年生にとって、秋はドキドキする季節です。

なぜかという、秋は**後期の教育実習**に加えて、**教員採用試験の最終結果の発表**があるからです。9月末の合格発表を控えて、教員もどこか落ち着きません。教職課程での学びが、よい結果に結びついていくことを願っています。

さて、今回は人間基礎学専攻**4年生の教職課程の教育実習**の様子をお届けします。

本専攻では、4年前期と後期の一部で、教育実習を行っています。**心理・文化学科の1年生からは3年生の後期に教育実習**を行うことになっていますので、4年生で行うのは現在の2年生までです。

教育実習は、**教職課程の集大成**として実際の学校で行われる実習です。実習期間は、幼稚園・小学校が4週間、中学校が3週間、高等学校が2週間（中学校免許も取得する場合は3週間）となっています。

今年度は、**4年生21名**が教育実習に臨んでいます。

福岡県中学校（国語）	8名
北九州市中学校（国語）	2名
長崎県中学校（国語）	1名
鹿児島県中学校（国語）	1名
北九州市高等学校（国語）	3名
福岡市高等学校（国語）	1名
福岡県高等学校（書道）	2名
大分県高等学校（書道）	2名
宮崎県高等学校（書道）	1名

その他に、**他専攻として3名（重複）**が後期の教育実習に臨んでいます。

福岡県特別支援学校	1名
宮崎県特別支援学校	1名
福岡県幼稚園	1名

ゼミ担当の教員は、**教育実習校訪問**を行い、どのように教育実習を行っているか、実際に観察したり、管理職や担任の先生からお話をうかがったりしています。残念ながら授業の関係で、福岡県外の学校には訪問ができませんので、電話でお話をうかがっています。

それでは、教育実習の様子を覗いてみましょう。

次の写真は、**中学校1年国語「ちょっと立ち止まって」**（桑原茂夫）の授業の様子です。



2つの図をもとに、筆者の主張を捉えていました。黒板に配置している時計を有効に活用して、「一人で→グループで→全体で」考える時間を大切にしていました。

下の写真は、中学校3年国語「作られた『物語』を超えて」（山際寿一）の授業風景です。



筆者の主張を具体と抽象の関係をもとに捉える授業でしたが、図表やICTをうまく活用して分かりやすく捉えていました。

教育実習日誌を見ると、3週間の奮闘ぶりが目に見えるようです。一部抜粋してみます。

○「実習生だからできないことは当たり前」と分かっているながら、実力不足で悩むことの多い3週間だった。笑顔で話しかけてくれる生徒や、多忙の中指導してくださる先生方に報えるよう、助言は素直に受け入れ、未熟ながらも精一杯努力したつもりだ。最終日には、クラスの先生や生徒たちからすてきな贈り物や温かい言葉をいただいた。関わった生徒たちからは、「先生になって戻ってきてね」や「頑張ってください」などの激励の言葉をかけてもらい、一生懸命に向き合ってきてよかったと心から感じた。

○放課後に生徒と一緒に勉強をしたり、話をしたりして過ごしていくなかで、だんだん生徒から話しかけてくれるようになり、よい関係性を築くことができました。生徒と話をたくさんすることが、信頼関係を築く大きな要因であると肌で実感しました。また、先生方と色々な話をし、生徒だった時とは違う視点で関わることができました。たくさんのアドバイスや実体験をうかがいだったので、実際に教職に就いた時には、それらを思い出しながら役立てていこうと思います。

まだ教育実習期間中の学生もいますので、全ての学生の教育実習日誌を読むことはできませんでしたが、それぞれが「大変だったけれど、充実した」日々を過ごしたことが、よく伝わりました。

次は、**教員採用試験の結果等、進路について**お知らせします。よい報告ができるよう、教員一同願っています。